

“歯科衛生士の臨床を豊かにするために
～Dental Hygiene Process of Careの観点より～”
“Enrich the clinical practice of dental hygienists
～From the perspective of Dental Hygiene Process of Care～”

溝部 潤子

医療法人社団皓歯会阪急グランドビル歯科診療所

抄録

日本歯周病学会 2022 ガイドラインから歯周基本治療における歯科衛生士の役割をみると、患者の治療への積極的参加支援、プラークコントロールの確立、プラークリテンションファクターの除去であり、基本治療終了後は、プラークコントロール、PMTC、歯周ポケット洗浄、SRPなどの口腔衛生管理を担うものと解釈できます。言い換えると、歯科衛生士のプロフェッショナルケアと患者さんのセルフケアの改善などを目的とした歯周治療の基盤的役割であることを示しています。歯科衛生士はオーラルヘルスケアを提供する責任と義務を持つ専門職であるからこそ求められる役割であるといえるでしょう。

しかしながら、プロフェッショナルケアとセルフケアについて、責任と義務を果たそうとすればするほどジレンマを感じている歯科衛生士は多いと思います。なぜなら、SRPの結果は歯科衛生士のスキル、経験はもとより診療環境のクオリティに左右されます。しかもそれらのレベルがいかにも高くても歯周ポケットの深い部分に残った歯石は完全に除去することは困難で、多くの歯科衛生士にとって悩みの種となってきました。

近年のマイクロスコープを用いたSRPは、使用ができる環境にいる歯科衛生士にとって、視認性の向上によってSRPの質を高める手段となり、上記の問題への解決策の一つとなっているといえるでしょう。

一方で、患者のセルフケアに関連した習慣は、患者自身が最適な口腔の健康を意識する意欲がなければ、改善されないため、歯科衛生士が患者の健康を担う上で課題となっています。日本では、動機付け以外でセルフケアの質に影響するものの一つに、患者の高齢化があります。それゆえ、歯科衛生士は患者のライフステージを見据えた長期にわたる継続的なケアが求められています。

つまり、今日の歯科衛生士には、マイクロスコープを駆使したような挑戦的なケアから患者の生涯のライフステージに合わせたマネジメントまで、幅広い能力が求められます。とりわけ臨床現場に携わる歯科衛生士に必須なものは、マネジメントのスキルであると思います。マネジメントを有効に行うためには、システムティックで科学的根拠に基づく思考が必要になります。

アメリカで理論構築された歯科衛生臨床・教育の骨格をなす概念であるとされている歯科衛生ケアプロセス（Dental Hygiene process of Care、以下DHPCと略す）は、その考えに基づいたものです。近年の日本の歯科衛生士の養成課程でも取り入れられています。その背景には、歯科衛生士が口腔の健康を守る専門家として全人的、包括的なケアを提供することや、口腔のケアは、全身の健康に関わる重要なケアとして、保健・医療・福祉の場で多職種と連携して活動することが求められていることがあります。

これは、技術志向の職業モデルから専門職志向の職業モデルへのパラダイムシフトを意味します。ここでいう歯科衛生士の専門的職能とは、歯科衛生士としての技術を口腔の健康維持のためだけでなく、患者のQOLの向上のために活用するスキルのことです。

このスキルはいわゆる臨床場面で用いる手技に限定されず、患者のニーズを明確にし、解決するまでの包括的な手順が含まれます。

DHPC が適切に活用されなければ、一つの目的を達成するのに時間を要するかもしれません。さらに良くない場合には、問題解決に至らないかもしれません。現在の歯科衛生士に求められる専門性とは何でしょうか？DHPC の一般的な考え方をご紹介しながら、皆様と一緒に考えてゆきたいと思います。

略歴

1980年 兵庫県立総合衛生学院 歯科衛生学科 歯科衛生士 2000年

仏教大学通信教育学部文学部 卒業 学士（文学）

2011年 大阪大学大学院歯学研究科 総合機能口腔科学 歯学博士

職歴

1980年 兵庫医科大学病院 歯科口腔外科

1991年 医療法人社団 皓歯会

2007年 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 開設準備室～教授

2015年 医療法人社団 皓歯会阪急グランドビル歯科診療所

九州歯科大学歯学部口腔保健学科 特別研修員